館報 入善

発行所
入善町中央公民館
編集発行責任者 船平源蔵
印刷所
田中印刷所

卅年度予算編成期に当って

財務課長　杉原禮次郎

三十年度予算編成期をひかえて町財政を検討して見るならば、二十九年度予算は新入善町初年度であった関係上、新規事業等多分な政治的明彩が織り込まれたため、多少大きい予算であったが、然し、予算編成上から見た場合予算技術は十分に発揮された模範的なものであったであろう。

ところが国家のデフレ政策の大嵐により、町財政に一大蹉跌をきしたことは返す〳〵も残念至極である。もしも、当初予算が円滑に執行されたならば、本町は県下のモデル町として日に日に発展したであろう。

さて、三十年度は如何に処すべきか、これ又容易ならざるものがあり、町財政は正しく危機に瀕しておるのである。

町財源の根幹をなす町税

税種別	二十九年度収入見込額	三十年度収入見込額
町民税	二二、五一四 千円	二一、〇一三 千円
固定資産税	五四、七二四	二九、七五七
その他税	一〇、〇八五	一〇、〇八五
計	八七、三二三	六〇、八五五

は、差引二、六四六万余円の驚くべき収入減となる。町民税の減少は呉紡法人税の皆無であるによる。

ついで固定資産税の収入減は、関西電力会社の配分額の皆無で、これまで町村財政をうるほしてくれた配分額二、五〇〇万円の全額削減こそは、全く致命的大打撃であると云わざるを得ない。これに代るべき財源は、普通交付税で、僅かに四〇〇万円余りという情けなさである。

そこで、町財源は

町税	六〇、八五五、〇〇〇円
地方交付税	六、〇〇〇、〇〇〇円
その他収入	一二、〇〇〇、〇〇〇円
計	七八、八五五、〇〇〇円

三十年度はこの枠内で賄わねばならぬ窮状である。

国家のデフレ政策は依然として持続されるものと予想される現在において、一二、〇〇〇万円余りの町債を有する今日、新規借入は不可能であり、増税等については慎重に考慮を要するので、全く手足をもぎ取られた三十年度と云わねばならない。

かゝる故に本年度は真の健全財政を堅持し、町財政の建直しに真摯に取り組むべきである。

先ず第一に借入金の償還を一大主眼とし、他の一切事業補助政策を中止すると同時に、支所の機構縮少、行政整理を断行することこそ、窮状打開の唯一の道でないかと思う。

三十一年度も、又同様であろう。

町民の皆様には、町財政の窮迫せる実状を御認識の上町政に一段の御協力を御願いして止まない。

昭和28年度（10~3月）入善町歳入歳出決算

歳入　（昭和28年12月24日認定）

款　項	予算現額	調定額	収入済額	収入未済額	増減
町税	円 45,720,259	円 46,542,786	円 44,280,593	円 2,262,193	円 △ 1,439,666
地方財政平衡交付金	4,498,000	4,498,000	4,498,000		―
分担金及び負担金	4,109,922	4,905,719	4,905,719		795,797
国庫支出金	18,171,497	13,406,076	13,406,076		△ 4,765,421
県支出金	14,829,701	10,924,683	10,924,683		△ 3,905,018
繰越金	3,067,227	3,067,227	3,067,227		―
其の他の収入	10,407,779	4,455,365	4,455,365		△ 5,952,413
町債	24,460,000	9,200,000	9,200,000		△15,260,000
翌年度繰上充用金	―	14,686,000	14,686,000		14,686,000
合計	125,264,385	111,685,856	109,423,663	2,262,193	△15,840,721

（備考 (1)其の他収入は手数料、寄附金、雑収入等を合算したもの。(2)銭位は切捨ててある）

歳出

款　項	予算現額	支出済額	不用額
議会費	円 1,930,465	円 1,837,822	円 92,643
役場費	24,114,557	24,086,038	28,519
警察消防費	6,315,846	5,443,790	872,056
土木費	9,571,378	8,978,770	592,608
教育費	17,751557	17,153,631	597,926
社会及び労働施設費	10,349,509	10,057,201	292,308
保健衛生費	3,030,520	1,660,841	1,369,679
産業経済費	31,496,484	26,078,755	5,417,729
公債費	16,248,279	10,178,756	6,069,523
其の他の支出金	4,192,037	3,948,060	243,977
予備費	263,753	―	263,753
支出合計	125,264,385	109,423,664	15,840,721

入善町國民保険歳入歳出決算

歳入	円
国健保険税	三、三六九、四一〇
国健保険料	一、三三三、〇三三
一部負担金	五、一一五、六〇九
国庫支出金	四、八〇九、九二〇
県支出金	三三六、〇二五
其の他の収入	九一八、三八一
繰越金	一、二三九、四三五
歳入合計	一七、一二一、八一三
歳出	
町役場費	一、二七四、八〇九
保健給付費	一四、一七六、七三〇
保健施設費	五八四、六八一
諸支出金	四四九、三六五
歳出合計	一六、四八五、五八五
歳入出差引残金	六三六、二二八

（昭和二八年一二月二四日認定）

成人式

一月十五日十時より入善小学校で成人式を挙げた。

まず、町教育委員長の式辞に始まり、記念品贈呈、優良青年の表彰、来賓の祝辞、成人三三四名の代表木沢隆君の答辞と型の如く式を終え、続いて成人祭りに移った。

意見発表、余興、スクエーアダンスと意義あるこの日を印象づけるプログラムが展開され、午後四時会を閉じた。

意見発表のうち、青年に負荷された重責を自覚し、一層勉学修養に努むべきこと、青年学級の振興のことを船乗りの立場から論じた荒木貞夫君の意見や、知己求めよと叫び、異性の知己の場合あくまでも純潔を持つべきこと、社会もまたこれを正しく理解してくれるよう望んだ早川洋子さんの意見などは、新しい世代に生きようとする若人たちの心組みがうかがわれて、傾聴に値するものであった。

優良青年受彰者氏名

上田善久　寺崎順子　島瀬貞吉　村田悦子　松田太吉　松原康子　井田栄一　島先栄子　四月朔日行雄　寺林梅子　早川正夫　松原美和子　杉田高好　野田敦子　板敏雄　浜瀬桂子　以上

青年祭りでは、講堂一ぱいに拡がって郷土民謡の踊りやスクエアダンスを全員が参加して楽しく踊った。写真はその一場面

公民資料

教育委員会について

教育委員会法は、教育行政の民主化、地方分権化及び自主性の確保を図るために昭和二十三年に制定されたもので、それ以来文部省は、教育行政に関する命令権、監督権が無くなり、単に技術的専門的な指導助言の機関となった。

△参考

教育行政の目標は、教育基本法第一条に次の様に示してある。

（教育は人格の完成をめざし 平和的な国家及び 社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび 勤労と責任を重んじ 自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して 行われなければならない）

△教委の目的

不当な支配に服することなく、地方の実情に即し公正な民意による教育行政を行うのが目的である

（教育法第一條 この法律は 教育が不当な支配に服することなく、国民全体に対し 直接に責任を負って 行われるべきであるという自覚のもとに公正な民意により、地方の実情に即した教育行政を行うために 教育委員会を設け、教育本来の目的を達成することを目的とする）

△教委の設置と委員の構成

1. 都道府県教委（七名）
2. 市町村教委（五名）

但し、町村は一部事務組合を設けて設置することが出來る。

委員のうち一名は議会の議員中より議会で選定し他は公選。

△教委の権限

1. 学校等の教育機関の管理——學校等の設置、廃止其の他
2. 教育内容をきめる——教科書の採択など
3. 教育機関の職員の任免其の他人事に関する事
4. 社会教育其の他學術、文化に関する事務の管理及び執行——図書館公民館なども含む
5. 其の他

委員個人の権限はなく、すべて委員会の決議のみによって行動することが出來る。

(但し、大學及び私立學校は委員会に所属せず文部大臣に所属する)

△教委事務局

教育長（資格を要する）委員会で選任する。任期は四年

(委員会の一切の仕事をする——執行機関——)

教育の予算は委員会で編成するが、その編成に当っては町当局と折衝して作るべきであって、もし町当局と意見が一致しないときは、町長の意見による教育費を計上し、教委案と両方を町議会に提出し、その議決によってきめられる。

△現在の委員

委員長　米沢甚吾
副委員長　鬼原信義
(議会選出)佐藤関一
細田清之助
西村敬周

公職選挙法改正要綱

改正された公職選挙法のうち一般に必要と思われるもののみを抄出してみよう

▽立候補の辞退は前日までとなった。

▽立候補禁止の職にあるものが立候補した場合は、その届出と同時に、何等の手続を要せず当然に退職したものとみなす。

▽無料葉書（衆議）現行通り一万枚とする。

▽ポスター（衆議）告知用ポスターを衆議五千枚、参議（地）知事、県議三千枚に増加するとともに、告知用ポスターは、その掲示箇所を移動し、他の演説会の告知用に再び使用し又は一般の選挙運動用に転用できないものとすること。

▽新聞広告は回数を二回とし、スペースを増加すること。

▽放送　大体現行通り

▽選挙公報（衆議）字数を二千字に増加し、写真を掲載すること、参院（全国）については、字数を六百字にすること

▽供託金（衆院）公営納付金制は、採用しないで、供託金を二十万円に増額すること。

▽飲食物の提供　湯茶の提供に限り認められていたのを茶菓（湯茶及びこれに伴い通常用いられる程度の菓子をいう）の提供をしてもよい。

▽自動車、拡声機及び船舶の使用

(イ)選挙運動用自動車は一台に限ることとし、これ以外に候補者専用の自動車は認めないこと なお、選挙運動用自動車は、乗用車に限ることとしないが、宣伝用自動車は認めないこと

(ロ)選挙運動用自動車の車上における選挙運動（停止した車上の演説は除く）は禁止すること

(ハ)選挙運動用自動車及び船舶に乗れる選挙運動に従事する者及び労務者は、候補者と合せて四人に制限するものとし、一定の腕章をつけなければならないこと。但し、運転手船員はこれを除くこと。

▽録音盤の使用　立会演説会においては、録音盤を使用して演説をすることを禁止し、個人演説会及び街頭演説においては、これを認めること。

▽連呼行為は、演説会場、街頭演説の場所以外はすべて禁止された。

▼国会も解散された。明け暮れ選挙の話になる月だろう。お互の生活にかかることと故、ユックリと考えて一票を投ぜねばならぬ。

▼今日の政治がもっと産業や国民のくらしに密着しなくてはならない。「政治の悪いのは、政治家を選んだわれわれ国民も悪いのだ」という反省があつて善いと思う。

▼教育という仕事は、しかったり、おどかしたりしてはできない。「ほめる」「かばってやる」「いつくしみ」「愛」それと熱が必要です。怒ったり、憎しみをもったら失敗です。（田中生）

正しい政治は公明選挙から

近く予定される衆議院議員総選挙と、四月の県議会議員選挙には公明選挙の実を達成し、正しい政治の樹立を期しましょう。

入善町選挙管理委員会

入善町風土記

黒部四十八ケ瀬　(1)

入善という地名は殆ど世に知られてはいないが、別の名である「黒部四十八ケ瀬」という名称は、古來鬼臥寒原（現在の親しらず）の険と共に北越往還最大の難所として凡く天下に知られていた。所謂黒部四十八ケ瀬というのは、厳密に云うと、沓掛方面より小川までと思われるが、此の区間は往古は全地域が黒部川でこの間を本流支流が数多く蛇行しつゝ流れていた事は現在の耕地に残る旧河道の痕跡（低地）をみても推察出來る。四十八ケ瀬というのは流れが四十八あったというのではなく「いとせわしくさがしきを、古えは四十八の数もて称したりけむ云々（越中志徴）」の様に数多い事の美称だとも云われている。長雨の頃ともなれば、黒部八千八谷から集った奔流が全河身に漲溢しその主流が水の勢いに従って或は西に、或は東にと変転していたと思われる。

長享元年（四六八年前）尭恵法師北国記行に「長雨尚晴れやらず、四十八ケ瀬とやらんをはるばると見渡せるに、「をつ」（魚津か）という所にはべりて、四十余り八つの瀬なから長雨に、ひとつ海ともなれる頃かな」

又、寛正六年（四九〇年前）同法師善光寺記行に「折節天気心地よく晴れて、四十八ケ瀬も名のみにてはべり云々」とあり、この情景を遺憾なく表現している。

黒部四十八ケ瀬という名称は色々の書物に書かれている。例えば

「金砂子」四十八ケ瀬—三日市川より古黒部川迄、川の数四十八流あり。然れ共十川ばかりは平常水なし。

「源平盛衰記」木曽早馬に驚きて、今井の四郎兼平に仰せて六千余騎を相具し、越中の国に差遣わす。兼平は鬼臥寒原打過ぎて、四十八ケ瀬を渡し、越中の国御服山に陣をとる云々と。

（七七二年前）　慎一郎

営農改善と葉たばこ

砂質浅耕土としては余りにも当地は有名である。その上老朽化が甚だしい。永年水稲単作として細細農業を営んで來たものの、時代の変遷と共に有畜農業が叫ばれる様になり、役牛肥育牛更に進んで乳牛と有畜農業が盛になった。蔬菜類の作付も普及した。一方、以前より名産として知られもし、多量の出荷と信用を得ていた黒部西瓜は他地方の生産に圧迫されて、年々不況に向ったのである。当地の農業経済が可成り西瓜の収入に依存するところ大きく、為に西瓜の不況による打撃は大きかった。

考えて見ると、或る一部の大農を除いては、入善地域平均反別は十反歩である仮に二石五斗を生産して保有量を差し引き平均供出量は十五石程度となる。しかし兼業農家や農外収入の増えている事もいなめない事実で、今述べた平均耕反及び平均供出量をもって農家経済を察する訳にはいかないが、上原地区の二十九年産米の供出実績は四十石以上の供出者が六名、三十石以上が三十名、二十石以上が七十七名となっている。

生活費の高騰、諸税等の支出の増加を考えると、農家の半数が百石程度の供出に匹敵する収入を得ねばならぬと思う。ここに、必然的に農業経営の改善と、農家経済の健全化を図らねばならぬ時期となった。

この時にはかられたのが葉たばこの導入であった。「何事も労なくして報いられるものではない」の鉄則の通り、たばこの耕作には人の知らぬ苦労と手数を餘儀なく必要とした。しかしそこには、田畑輪換による土地の改良と、水稲単作における労働の平均化と、収入の安定性が内部に秘められていることを見のがしてはならない。

農業のおかれている立場と水稲、つまり、食糧事情の変転がもたらす当地農業の沈浮について、誰が安定していると断言するであろう。かかる時に率先葉たばこの耕作に着眼し、昨年は処女耕作でありながら、まことによく出來た事を何よりもよろこびたい。水稲収入の三倍相当に得た事実は恐らく現段階としては葉たばこを除いて他には尠い。葉たばこに次ぐものとして上げるならば、チューリップ、西瓜と言うことになろう。しかし乍ら投機的選好であることは明きらかである、と言いたい。　ＴＳ生

（筆者は上原たばこ組合の書記）

土地の簡単な測り方

農務課　杉原菊次郎

耕作地は農家にとっては農業の基本であり、資産であって、この上もない大切なものであります。然るに耕地が人まかせであって、何段何畝歩あるか正確に知って居られない方が多いとは、誠に遺感に思います。

土地の測量には、色々の方法がありますが、今、皆様の家内だけで出來る簡単な方法をお知らせしましょう。

それには先ず間竿を作らねばなりません。

△間竿の作り方

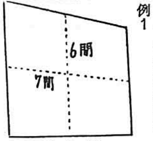
まっすぐな手軽い竹を二間の長さに切り、真中の一間の所に穴をあけ、赤い布切れをつけます。次は、一間の先端三尺の間に六寸づつ五ケ所に穴をあけ、前の様に布切れをつけると、それで出来るのであります。

△測量の方法

先ず地形図を書き、地形によって次の図解のように測り、これを地図に記入します。計算の方法は

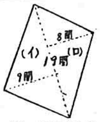
(1)正方形、長方形の場合
縦×横＝面積
(2)梯形
(上底＋下底)×高サ÷2
(3)三角形
底辺×高サ÷2
(四角な田でも三角に測ると間違は少ない)

例1



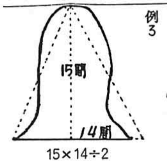
7×6=42
42坪

例2



(イ). 19×8÷2
(ロ). 19×9÷2
(イ)+(ロ)＝坪数

例3



15×14÷2
105坪

○土地台帳反別との比較

実測した耕地面積は、役場にある土地台帳の反別と比較して、その増減を調べて置かねばなりません。

か様にして、自分の耕地反別を明らかにしておくことによって、二毛作の反別とか、肥料の分配等種々の計画に役立つのでありますが皆さん、今年の計画中の一つとして是非耕地反別の正確を期するようお勧め致します。

有線放送

入善地区施工開始

有線放送は簡易にラジオが聴けることと、スイッチの切り替え一つで町内放送が出來、全戸一様に通知が徹底させ得る外、部落中継所から本部へ送話され、電話の役もつとめるので、誠に重宝なものである。例えば、火災などの緊急事態を伝えるのに、これ程便利なものはない。

本町で、既に実施しているのは上原椚山両地区であるが、今度入善地区（町筋を除く）にも実施しようと計画設計を進めていたが、一月十七日指名入札を行った結果、百三万七千円で朝日町窪田吉田ラジオ店が工事を請け負うこととなった。

「いい加減な國」論

若栗新　黒東人

外国人が日本に来てみて述べる感想とか、印象というものは、いやというほど聞くのだが、おせじは別として、これらは概して我々にとって自慢にならぬものが多いようだ。ことにわが国の生活状態等については万事につけ「いい加減な国」だという意味のそれに要約されそうである。勿論上っつらだけを見てそれと判断するのはうかつというべきだ。それにしても、少くとも「いい加減な国」という形容はうがち得て妙であると思う。

外人が羽田で日本の土を踏んだとたんにそう感じさせる材料があまりにも多いからである。

道路という名のドロンコ通りを高級船來車が洪水の如く走る。巨大なビルの足もとにニコヨン族のバラックが所せましと竝んでいるものにおびえたような顔した安サラリーマンが、一月分の月給を洋服屋につぎ込んだかと思わせる服装で、これまたケバ〳〵した化粧をした女性と手をくんでひしめき通る。等々　これは都市の一例だが、我々の入善とて差こそあれ同様だ。考えて見れば、これ等一つ一つが全然理屈に合っていない。

折角外国から借款を受けたのだから、弾丸道路もよかろうが、我々としてはバスの通路のドロンコの方が先決であると思う。社長や代議士ともなれば舶来車もよかろうけれど、国際収入の赤字は一体どうなる！

東京にビルが建つその早さは恐らく外国に比してもヒケを取らぬだろう。ところが反面未だに吹けば飛ぶようなバラックがその大部分であるという現実を為政者はどう見るか。

いい服を着たいのも人情である。しかし、サラリーマンは背広を着よという規則はない。

こんな矛盾は何も外国人ならずとも、デフレにあえぐ人々ならば誰でも気がつくはずだ。これは何とかせねば……というかけ声だけではどうにもならない。

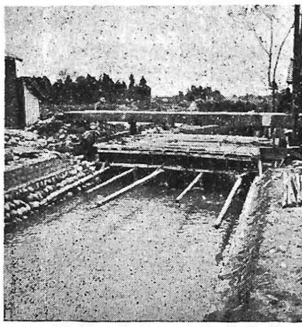
ところで、或る綜合雑誌に先般の中国視察団の見聞記が載っていたその中に、『中国の一工場を訪ねて、ある工員に『あなた方はいい洋服を着たいとは思いませんか』と聞いたら、その青年答えて曰く「背広を着ちゃいかんという規則はありません（中略）むろん人間ですからおしゃれが嫌いな筈はありません。もっと生活が安定したら、そりゃ僕も背広を着ますし、女の人もお化粧をするでしょう』と、いう一節があった。

中国人は、こんな心構えで建設に邁進するんだから伝えられる中国の建設ぶりもげにこそである。もっとも心掛けがなけりゃ人民服一枚、化粧なしで働けるものではない。と同時に確かな見通しのきいた政府の計画がなけりゃやかかる心構えを持てと云っても無理であろう。

外国からぜいたく品を買ったそのトバシリを国民に押しつけるような政治家が説教をしても国民は聞くものではない。徒らに中国ベタ惚れ論もどうかと思うが、我々としてもここで一つ女性に化粧なし、服装は人民服（ハンテンでもよい）一本にして――というほどの気がいを示さねば、いつまでたっても「いい加減な国」の汚名を返上することは出來ぬと思う。

積寒事業

本年度に行った土地改良事業は総額三千六百六万円であるが、その大部分は積雪寒冷単作地帯土地改良事業（積寒事業）である。その内、河川改修費は総額の$\frac{2}{3}$に当る二千三百五十万円を占めて居り、次は$\frac{1}{6}$六百二十一万円の農道新設費である。その主なものは、水路では椚山、入善、上原、青木の各用水改修及び囲川改修であり、農道では、墓の木、青木など総延長六千メートルに及んでいる。



(写眞は改修した入善用水)

お願い

投稿には必ず十二字詰二十一行の原稿用紙をお使い下さい。

編集部

入善新年短歌会詠草

一月六日
於入善中央公民館

たけだ・のぼる
霰降る枯野に來り十六羽の
鶏にからむと青草を摘む

浜田あきよ
生活にすすけし母の手のひ
らに吾が編みし手袋をそっ
と置く

城内智恵子
不調なるタイプライターを
今日もあやつりつつクリー
ニングの時間を欲しと思ひ
ぬ

柚木賢一
我なれば買はむ高価なおも
ちゃなど新年迫るウインド
に飾る

田中忠一
クリスマス雪のちらちら降
る中に畚をかつぐ女かしま
し

米沢時男
教科書のかげに彫りゐし教
え子の版画押したる賀状も
來たり

二上令信
歩みおそき母子の影が高く
ともる舗道のあかりの中に
入りゆく

島瀬斗久
女我の位置は小さし我が家
に癒えて帰るもうれしから
ざる

〝世はさかさま〟

なりた屋について

名優の名高い市川海老蔵が近く十代目団十郎を継ぐという。

これで久しく歌舞伎ファンに忘れられていた「成田屋アー」というう威勢のいゝ大向うの声もきかれることになりそうだ。思えば永い団十郎欠員の時代であった。

ところで歌舞伎の世界とは別に「なりた屋」という俗語がある。役だといえば何にでもなりたがるヤカラのことである。

近來なりた屋中の傑物は鳩山さんであろう。追放以來雌伏八年半、一日として総裁、総理になりたいと思わなかった日はなかろう。

裏を返せばこれと競った吉田さんも鳩山さん以上のなりた屋だといっても差支えなさそうだ。どちらも相当なりた屋根性である。吉田さんはそのために退き時を失ない、終りを飾ることが出來なかった。鳩山さんもどうやら前車の轍をふみそうな気配がつよい。

しかし、なりた屋は必ずしも吉田さんや鳩山さんの専売特許ではない。われわれのまわりを見てもこのワクに入りそうな人物がワンサといる。町長や県議、町議はもとより区長、部落会長、農協理事から小さな土地改良区の役員までなりた屋の狙う役は数限りないが同じなりた屋でも単に名誉慾とか「役について一パイ飲んでやろう」というのはまだ罪が軽いとして、多くは「汚職をしてもうけてやろう」「自分の商売を有利にしよう」などという下心を持った人物であるところになりた屋即悪徳漢の印象が強い理由があるようだ。

そこでとんち教室ではないが、はじめの成田屋と後のなりた屋の類似点をさがして見ると、初代団十郎以來三百年成田屋は代々荒事（あらごと）を得意とする江戸歌舞伎の名門で強い正義派の人物を演ずるのがきまりで、勧進帳の辯慶や助六のような役が多いのに反し、なりた屋の方は荒事を得意とする点は似ているものの汚職、暴行、縄張争いを業?とし強きを助け弱きをくじくというとんでもない三枚目が多い。

考えて見ると、皮肉な世相である。本家の成田屋に正統を襲う者がいないというのに亜流のなりた屋は津々浦々に充ちているというまさに世はさかさまである。

新らしい年を迎えた。ことしこそ団十郎を襲名する海老蔵に成田屋としての大活躍を期待し、われわれのまわりにウヨウヨしているニセのなりた屋をあらゆる役からしめ出す年にしたいものだ。

流　剛

職場めぐり

――入善図書館訪問記――

夜長は知識の書き入れ時!!

文化のレベルは図書館の発達の度合いで知られる。

然し、読書にはなかなか金がかゝる。今、仮に百万円を投じても本町各自に配るとしたら、各戸に二百円の書物を一冊しかわたされない。ここに於いてか最も効果的に多くの書物を購入し管理する役目をする図書館の意義があるのであって本町でも既報の如く昨年から図書館を開設しているのである。

この年度内に三十五万円の新刊を買い求め、総冊数新旧合せて五千冊近く備えてあるのであるが、その利用状況は毎日平均本館六〇人巡回文庫二〇〇人程度で係員としては未だしの感ありと歎じている。

又、一方これを入善町書店側の書物の売れ行きの状況から町民の読書熱を観察して見ると、大体一年間に推定一千万円程度の売り上げらしいが、うち、教科書が約五割、雑誌が三〜四割単行本が一〜二割と云う見当で、住民の数に比べて、非常な低率だそうである。

尚、単行本の気のきいたものは大概朝日町あたりの人が來て買って行くと云う始末で、読書熱は県下の最低でなかろうか。

然し、図書館の読書カードを調べて見ると、絶え間なく読書しているまじめな読書家も相当あるので、これ等の人々の感化によって一歩〳〵読書熱の盛んになるよう期待もされる。

今、一番よく図書館を利用している人を挙げて見ると、

広野　進君　入高
長島勝正君　公務員
松倉美枝子さん　入高
米沢富子さん　公務員
堂徳紀子さん　入中
大杉博子さん　[illegible]
松倉林左エ門君　大工

の諸君であるが、そのうちまじめな書物ばかり精読しているのは大杉博子さんである。

大杉さんは、職業上午前はひたすら休養すべきである筈なのに、彼女はこれを読書の時間に当て、閲覧室に閉じこもって、みっちり勉強して居り、時には閲覧室の清掃を手伝うことさえあると云う眞面目さで係員は深く感激している。

上は多読NO.1
広野　進君
下は精読NO.1
大杉博子さん

◇◇行事だより◇◇

▽出漁者大漁祈願祭
一月六日入善小學校で関係者三百数十名参集挙行

▽一月十二日入善町連合婦人会長会議を開き、予算決算の議定の外「政治教育に関心を高めよう」と申し合せをした。

▽上原校下連合青年団総会
一月十六日上原校下連合青年団総会開催、新役員に団長金沢大義、副団長本多幸良、仝柳平弘の諸氏を選定した。

▽仝日横山校下青年団でも総会開催、役員改選の結果団長佐藤留人、副団長広川久昭、仝尾山妙子の諸氏就任

▽二十三日横山支部青年団では富山新聞編集局長を招いて講壇式討論会開催

▽二十九日横山婦人会では町政を聴く座談会を開催

▽二月一日小摺戸小學校校舎四教室増築落成式を挙げる。

▽二月四日飯野小学校校舎二四七坪の改築落成式を挙げる。